

令和6年度病害虫発生予察注意報第4号

令和6年8月23日

岐阜県

作物名 果樹（カキ、ナシ、リンゴ、ミカン等）

病害虫名 果樹カメムシ類
（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

- 1 発生地域 県下全域
- 2 発生時期 8月下旬以降
- 3 発生程度 多い

4 予報の根拠

- （1）各地域に設置した予察灯における8月第1半旬から8月第3半旬の誘殺数は、チャバネアオカメムシでは、岐阜市則松2,588頭（平成568.7頭）、美濃加茂市山之上町477頭（平成138.2頭）（図1）、ツヤアオカメムシでは、岐阜市則松3,107頭（平成108.4頭）、中津川市駒場59頭（平成34.3頭）（図2）、クサギカメムシでは、中津川市駒場5,578頭（平成391.5頭）、高山市国府町2,405頭（平成280.0頭）（図3）で、平成と比較し1.7～28.7倍となっている。
- （2）8月中旬におけるヒノキ毬果口針鞘数（カメムシの吸汁痕）は、岐阜市秋沢で1果当たり16.3本と、山林からの離脱の目安とされる25本／果に近づいている。
- （3）岐阜・西濃および中濃地域の果樹園では、すでに成虫の飛来が確認されており、今後山林から離脱するカメムシ類がさらに多くなる恐れがある。
- （4）名古屋地方気象台の1か月予報（8月22日発表）では、今後の気温は平成より高いと予想されており、本虫の活動に好適な条件が続くため、園内への飛来と果実の吸汁による被害果の発生が懸念される。

5 防除上の注意事項

- （1）果樹カメムシ類の被害の発生には地域差や園地差があるので、園内へ飛来を確認したら防除を実施する。なお、薬剤散布は夕方か早朝に行うと効果的である。
- （2）果樹カメムシ類の飛来は夜温及び湿度が高く、風の弱い日に多くなるので注意する。
- （3）防除に当たっては、周辺環境、気象条件等に注意し、薬剤の飛散防止に努める。
- （4）農薬の使用にあたっては、最新の登録情報を参照し、適正に使用する。
(<https://pesticide.maff.go.jp/> 農薬登録情報提供システム)

【参考資料】

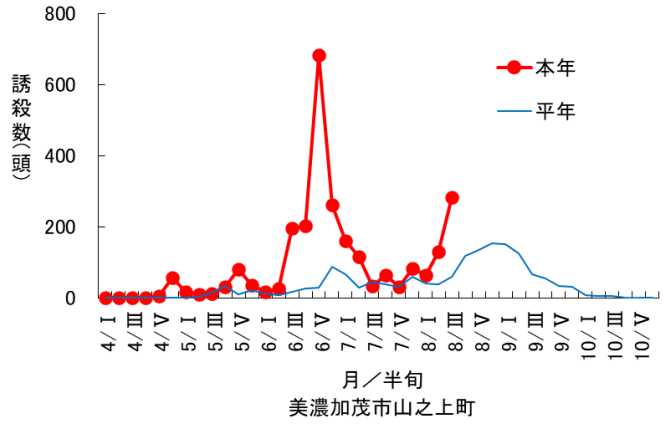
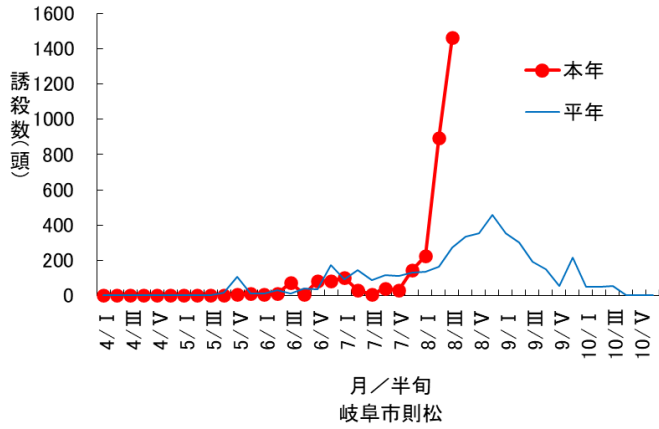


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数

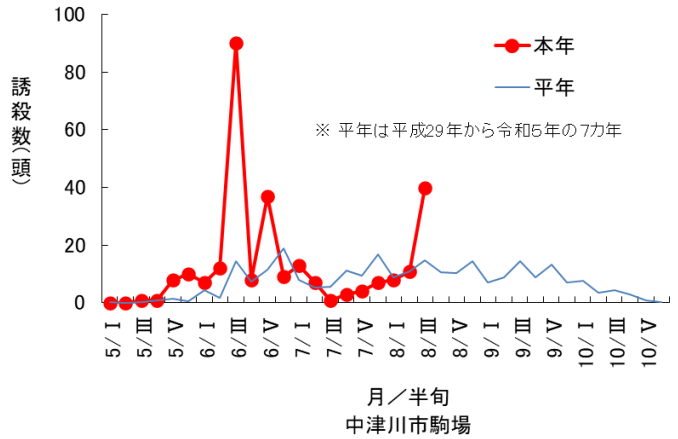
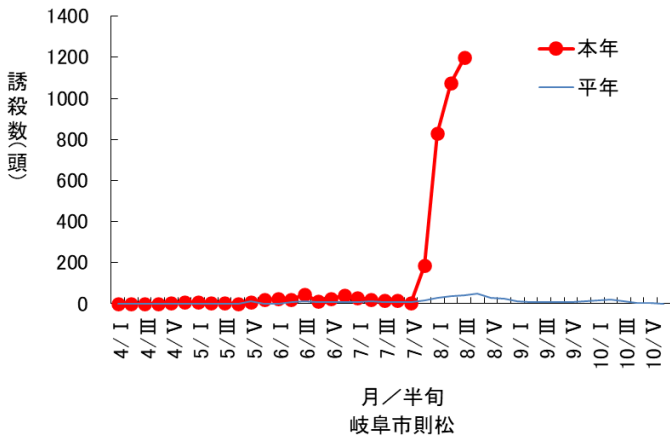


図2 予察灯におけるツヤアオカメムシ誘殺数

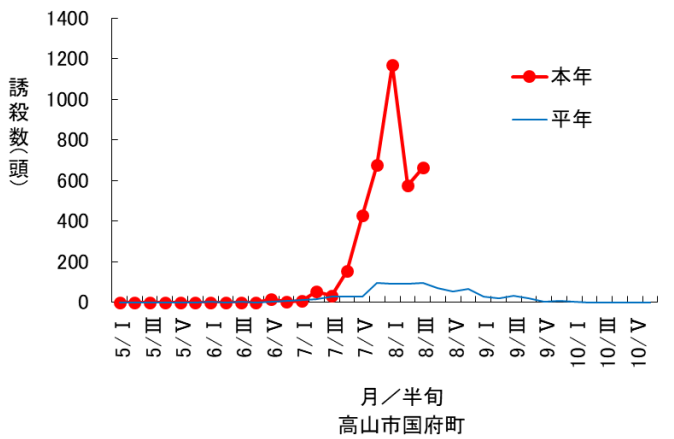
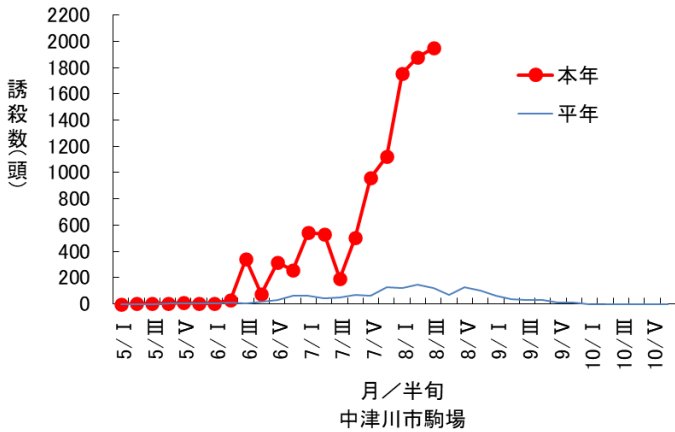


図3 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数